

中経 論壇

経営支援NPOクラブ理事
萩原 一夫



ドイツの外交については大
学時代から関心を抱いてき
た。特に1969年、旧西独
のブランドが首相に就任し、
米ソ冷戦対立の中で東方外交
(Ospolitic)を推進した時
には、当時の日本外交と比較
し心躍った。海外駐在でもド
イツで79年から87年まで勤
務。ベルリンの壁崩壊の翌年
90年には、提携先を求めてベ
ルリンに出張し、ブランドン
ブルク門を行き来し、冷戦の
終結を実感することが出来
た。

それ以降もドイツの政治・
外交には強い関心を持ってい
るが、先月イタリヤで開催さ
れたサミットの後、ドイツの
メルケル首相は注目すべき発
言を行った。「我々が他者だ
けに頼れる時代はある程度終
わった」とし、同盟国である
米国トランプ政権への不信感
を表明した。「欧州は自分た
ちの運命を自分たちで握るべ
きだ」と欧州の結束を呼びか
けた。ドイツは戦後、緊密な
対米関係を維持しながらも、
独自の外交戦略を展開してき
た。

一方、同じ敗戦国で「経済
大国」となった日本は、田中
角栄内閣による対中国回復

ドイツの独自外交と日本

交渉等を除き、自民
党政権の下、一貫し
て対米従属外交を継
続してきた。基
地問題についても、
ドイツが主権国とし
ての立場を取り戻し
た一方、日本は日米
地位協定の改訂すら
交渉のテーブルに上
げることが出来ず、
先日の米イージス艦
とコンテナ船の衝突
事故も、原因究明が
出来ていない。

国内のポピュリズムに打勝
ち、フランスに新たに登場し
たマクロン大統領は、ドイツ
のメルケル首相と手を携え
て、欧州としての独自の立場
を確立しようとしている。同
じ敗戦国から立ち上がった日
本も、このドイツとフランス
の関係再強化に学び、近隣諸
国、とりわけ韓国との関係を
緊密化していくべき時であろ
う。10億円基金と従軍慰安婦
「合意」問題などに固執する
ことなく、より懐の深い姿勢
で手を携えていくべきであ
る。

「強い日本を取り
戻そう」という戦前
回帰色の強い安倍政
権は、一昨年の「安
保法制」の強行採
決、そしていよいよ
憲法9条に自衛隊明
記へと踏み出そうと
している。この動き
は日本の防衛能力を
高めることよりは、
北朝鮮のミサイル危機をあ
おり、避難訓練など戦中の防
空訓練のような対応ではな
く、首相の言う「地球儀を俯
瞰した」大局的観点から、自
主的な北東アジアでの善隣友
好外交を強めていくことが、
今こそ必要であると確信して
いる。

独仏に学び隣国と緊密化

独自の外交戦略を展開してき
た。